

お詫びと訂正

2018年4月発行の生物と気象18巻2号に掲載された、「農業気象分野で応用可能な広域気象データセットの現状と課題」の56ページ右段41から54行および57ページ左段1から11行に誤りがございました。謹んでお詫び申し上げます、訂正いたします。

誤：長期（現時点で1951年以降）の降水量データ

正：長期（アジア域は現時点で1951年以降、日本域は1901年以降）の降水量データ

誤：APHRODITEは日値を提供しているため極端な降水現象を含む時間変動を考慮するのに適している。

正：APHRODITEは日値を提供しているため、水文、植生や農業モデルへの入力データとして適している。

誤：個別の研究グループから個別に承諾を得て使用するデータ、さらに独自の観測データを用いている。

正：各国気象庁や研究グループから個別に承諾を得て入力したデータを用いている。

誤：空間分解能は、モンスーンアジア域版（MA）では緯度経度0.5度または0.25度であるが、日本域版（JP: Kamiguchi *et al.*, 2010）では0.05度である。

正：空間分解能は、モンスーンアジア域版（MA）、中近東版（ME）、北ユーラシア版（RU）では緯度経度0.5度または0.25度であるが、日本域版（JP: Kamiguchi *et al.*, 2010）では0.05度である。

誤：データセット本体はデータ統合解析システムDIASから入手可能であることも、他のデータと比べて際だった特色と言える（ファイル形式はNetCDFが採用されている）。

正：APHRODITE-1（APHRODITE's Water Resources, 2006-2010年度）で作成されたデータセット（APHRO_V1101およびAPHRO_JP）は、データ統合解析システムDIASからも入手可能である。なお、ファイル形式は、GrADS形式およびNetCDFで配布されている。

誤：開発プロジェクト第1期では2007年までのデータが作成され、現在進行中の第2期では精度向上とともに提供期間の延長が図られると期待される。

正：プロジェクト第1期では2007年までのデータが作成された。現在進行中（注：原文が投稿された2018年度）の第2期（APHRODITE's Extreme Events, APHRODITE-2, 2016-2018年度）では、提供期間の延長と、極端な降水現象を含む時間変動の解析に適するよう改良されると期待される。ただし、使用にあたっては、開発元の作成するReadmeやFAQ（<http://aphrodite.st.hirosaki-u.ac.jp/japanese/faq.html>）に十二分に注意されたい。

誤：APHRODITE's Water Resource. <http://st.hirosaki-u.ac.jp/~aphrodite2/>

正：APHRODITEプロジェクト日本語ページ <http://aphrodite.st.hirosaki-u.ac.jp/japanese/index.html>